

令和4年度 江戸川区立小岩小学校 学校関係者評価 最終評価用報告書

学校教育目標		生きる力を養う ○考える子(確かな学力) ○思いやりのある子(豊かな心) ○元気な子(健やかな体)	目指す学校像 目指す児童像 目指す教師像	○「成長」のある学校、「信頼」のある学校、「使命」のある学校 ○「確かな学力」「豊かな心」「健やかな体」をもった児童 ○生きる力を養える教師 保護者・地域を共感させられる教師						
前年度までの学校経営上の成果と課題		<成果>新学習指導要領に基づく学習指導の重点化と研究推進、いじめ・不登校に対する組織的対応の充実、組織的学校の運営と働き方改革に基づく取組の充実 <課題>新学習指導要領に基づく思考力等の育成の具現化、あいさつや基本的生活習慣の定着のための学校・家庭・地域の連携、教職員の自律的組織的学校の運営の定着と、働き方改革の一層の推進、コロナ禍の教育活動と学校運営の推進								
教育委員会	取組項目	評価の視点	具体的な取組	数値目標	自己評価		学校関係者評価		年度末に向けた改善策	
					取組	成果	成果と課題	評価		コメント
いきいきと学ぶ学校づくり	確かな学力の向上	・7つの主な事業(取組)に対しての学校の組織的な対応による取組の実施・充実	確かな学力向上推進プランとコアプラン等に基づく、確かな学力の向上	全教員の授業公開実施54回 校内研究による検証9回 補習教室 年150回実施 連携教育プログラム検証2回	A	B	学力調査 国語AB層54.8% CD層45.2% 算数AB層35.3% CD層64.7% 内部評価:成果AB100% 課題:国語D層、算数CD層重点に授業改善	B	評議員:元年度からの学力向上の取組を続けてほしい。国語の基礎力とともに、算数のCD層に手厚く指導をしてほしい。	算数を中心とした問題解決的な学習の継続、アクションプランに基づき、東京BDや補習教室による一層の基礎基本の定着
	体力の向上	・「運動意欲の向上」に向けた取組の実施・充実	コロナ/仮設校舎 小岩ムーブの全校実施 ・統一準備運動、休み時間体育、竹馬運動の全学級実施	小岩ムーブ:学級実施100回以上、休み時間体育年35回、竹馬学級別集中期間1回	B	C	内部評価:成果AB95.7% CD4.3% 仮設校舎下・コロナ禍による制約があった。体力テスト結果を加味し小岩ムーブ1・2の全学級実施	B	保護者:AB65.7% CD34.3% 評議員:保護者は校庭未完成で運動ができないと心配しているのではなか。先生たちは工夫している。	完成した校庭を活用し、走る運動の工夫・充実、遊びを通した体力づくりの実施。 小岩ムーブの全学級継続実施
	読書科の更なる充実	・読書を通じた探究的な学習の充実	問題解決的な学習(校内研究)と運動した人や社会、自然に関わる探究的な学習活動の全学級実施	図書ボラ読み聞かせ年8回 探究的活動:学級年3回以上 読書ノート活用:学級1回以上 学校図書館活用:学級週1回 継続読書年35時間	B	B	人や社会、自然に関わる探究的学習実施。問題解決結果を読書ノートやポップ作品でまとめ コロナ禍、教員・図書ボラ読み聞かせ実施 環境整備実施	B	評議員:新しくできた学校図書館を活用した探究型の授業の充実を期待する。家庭でも読み聞かせができるようになるとうい。	区読書科指導指針に基づく指導の充実 小岩図書館・巡回図書館司書との連携
特別支援教育の推進	共生社会の実現に向けた教育の推進	・ユニバーサルデザインの視点を取り入れた個に応じた指導の充実 ・エンカレッジルームの活用促進 ・副籍交流、交流及び共同学習の充実	「自尊尊重と共生」に基づく通常級と巡回・弱視の連携・相互支援に基づく特別支援教育の推進(教育課題実践推進校、コアプラン) ・コロナ禍 対象児童5名文書交流	授業公開実施26回 校内研究検証4回 個別対応会議実施20回以上 理解教育(共生学習)7回 UD揭示全学級実施 副籍交流11回	A	A	研究発表を開催し、「自尊尊重と共生」の姿勢を養う指導の在り方を内外で確認できた。 内部評価:成果AB82.6% CD17.4% 5年生:人権擁護委指定「人権メッセージ」全児童作成も成果である。	A	評議員:通常学級と特別支援の先生が連携して個別最適な支援や共生の姿勢を養っている点が良い。継続してほしい。	通常学級と特別支援学級の連携による特別支援教育、日常の授業や学校生活など各指導場面で「自尊尊重と共生」の姿勢を養う、総合的な指導育成の継続実施
	子供たちの健全育成	・いじめ・不登校の未然防止に向けた魅力ある学校づくりの取組の充実 ・チルドレン・サポートチームや生活指導連絡協議会の活用	個別対応会議、学校相談、迅速な指導の実施 生活指導連絡協議会との運動	いじめ解消100%達成 不登校児童0名達成 生活指導連絡協議会事例の校内活用2回	B	B	いじめ解消89件 対応中13件 不登校3件対応中 個別対応会議32回実施	B	評議員:迅速な対応・指導を続けてほしい。また放課後の過ごし方やSNSルール等の徹底などPTAと連携した「共同提案」が良い。継続してほしい。	いじめ解消100%・不登校児童0の達成 関係機関や家庭との連携一層強化
学校と家庭、地域、関係機関との連携強化	学校関係者評価の充実	教育活動の改善・充実に向けた学校関係者評価の実施・改善	教職員:自己評価と自己申告運動 保護者:重点項目焦点化のアンケート 学校評議員:総合的な評価、意見聴取	中間評価と年度末評価の実施 各重点項目(本評価取組):前年度比向上	A	A	教職員:自己評価と自己申告運動させ実施 学校評議員会の実施:①経営方針や取組説明、②教職員等の評価をもとに総合的な評価、意見聴取	A	学校内部だけでなく、逐次、学校評議員の成果や課題、改善点を伝えているのがよい。来年度の方向性もわかりやすい。	教職員の評価と自己申告、保護者アンケート、学校評議員評価が運動した学校評価の継続により、教育活動や学校運営の一層の改善
	相談体制の充実(教育を支える取組)	個々の保護者と信頼関係を築く工夫や保護者会等で保護者と教員(学校)、保護者同士が連携する工夫	コロナ禍 学校相談の実施 保護者会等の工夫	自己評価:AB評価80%以上 保護者アンケート:AB評価80%以上	A	A	内部評価 成果:AB95.7% CD4.3% 相談・関わり件数のべ34403件 周年祝う会との継続的な連携 日常の保護者連携 不自然災害時の保護者連携の改善	A	評議員:きめ細かく相談に応じている。保護者は安心する。周年も関係者と丁寧に連携している。保護者:丁寧に対応が大部分。不十分な対応との意見もあり。	学校相談の継続 広報活動の充実 地域・PTAとの協働
特色ある教育の展開	「学校における働き方改革プラン」	「学校における働き方改革プラン」に基づく取組の実施	会議等削減の工夫 専門職務に特化した業務遂行	定期全体会議ゼロ、毎週金曜日会議ゼロ ICTを活用した指導と校務の改善 200日以上	A	A	全体会議の実施92%減 毎週金曜日の会議未設定、毎月一斉退職日の継続実施	A	先生たちが健康に留意しながら働いてほしい。連絡アプリの導入などの工夫がよい。	学校が担うこと、家庭や地域が担うことを明確にしなが、連携して職務や子供の健全育成の取組充実
	あいさつの定着(生活スタンダード)	児童自ら進んであいさつができるようにする指導の工夫	学校・PTA・地域・近隣校の運動によるあいさつ指導の充実	教職員自己評価:AB80%以上 学校評議員評価AB80%以上	A	A	内部評価 成果:AB95.7% CD4.3% あいさつ名人(質の指導)導入 地域や他校と協働したあいさつ標語コンクールの実施	A	保護者:AB92.8% CD7.2% 評議員:場や相手の応じたあいさつができてきている。標語コンクールで地域より賞を授与した。継続したい。	学校・地域・家庭並びに小中の一層の連携により挨拶の質向上・充実
	組織的学校の運営(教育を支える取組)	主たる担当職務で、起案や推進、調整、報告相談などに取組の充実	効果・効率を考えた学校運営の推進	教職職員自己評価:AB評価70%以上 学校評議員評価:B以上	A	B	内部評価成果:AB95.7% CD4.3% 周年部会や4部会を軸にした組織運営、主幹や統括主任による調整、自律と相互支援の姿勢が定着	A	評議員:周年等の組織的運営が進んでいる。研究発表や行事の運営もきちんとしている。	教職員一人一人の自律的学校の運営の一層の推進